

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（11月）

きゅうり：コナジラミ類(タバココナジラミ:退緑黄化病)

タバココナジラミ
※

コナジラミ類成虫*



退緑黄化病被害株※

特徴

- ◆ タバココナジラミやオンシツコナジラミが加害する。
- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆ 多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
- ◆ タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病※1の原因ウイルスを媒介する。
- ◆ CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- ◆ キュウリのウイルス病(退緑黄化病や黄化えそ病等)は見た目で見分けることは困難である。

※1:ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるウイルス病。
きゅうり、メロン、すいか等に感染する。

防除のポイント

- ◆ コナジラミの発生を認めたら、グレーシア乳剤、アフーム乳剤、トランスフォームフロアブル等を散布する。
- ◆ 退緑黄化病は、CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要。
- ◆ 発病株はほ場外へ持ち出し処分する。

令和6年8月29日発出の病害虫発生予察注意報第5号「コナジラミ類」
についてもご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2408_chuuihou05_konajiramirui_soshin.pdf

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報(11月)

A 果樹

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
果樹類全般			果樹カメムシ類		

B 野菜

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類全般				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
				オオタバコガ	
			アブラムシ類		
ねぎ				ネギアザミウマ (えそ条斑病)	
きゅうり		バと病			
		うどんこ病			
			褐斑病		
			アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマ: 黄化えそ病)		
					コナジラミ類 (タバココナジラミ: 退緑黄化病)
あぶらな科 野菜			根こぶ病		
			菌核病		
		コナガ			

果樹

果樹類全般

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤(かんきつ、かきなど)、アディオン乳剤(かんきつ、かきなど)等を散布する。

令和6年8月2日発出の病害虫発生予察注意報第4号「果樹カメムシ類」(本年2回目)についてもご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2408_chuuihou04_kajukamemushirui_soshin.pdf

野菜

野菜類全般

シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ あぶらな科野菜(キャベツ等)、ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 若齢幼虫の防除に重点を置く。卵塊や分散前の幼虫は、葉ごと取り除く。
- ◆ ねぎでは葉身内に食入し、薬剤が届きにくくなるので、早期発見に努める。
- ◆ 発生を認めたら、コテツフロアブル(キャベツ、ブロッコリー、ねぎなど)、プレオフロアブル(キャベツ、ブロッコリー、ねぎなど)等を散布する。

令和6年9月26日発出の病害虫発生予察注意報第6号「シロイチモジヨトウ」についてもご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2409_chuuihou06_shiroichimojiyotou_soshin.pdf

野菜類全般

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ あぶらな科野菜、なす科野菜、さといも等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アフーム乳剤(キャベツ、ブロッコリー、ほうれんそうなど)、グレーシア乳剤(キャベツ、はくさい、いちごなど)等を散布する。

令和6年9月5日発出の防除情報「シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウに注意！」もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2409_r6bojo03_shiroichihason soshin.pdf

オオタバコガ



幼虫

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫のフンが確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、プレバソフフロアブル5(なす、トマト、ミニトマトなど)、ディアナSC(なす、トマト、ミニトマトなど)等を散布する。

令和6年5月24日発出の病害虫発生予察注意報第2号「オオタバコガ」についてもご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2405_chuuihou02-ootabakoga.pdf



卵

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤(キャベツ、しゅんぎく、なす、トマトなど)、コルト顆粒水和剤(キャベツ、なす、トマト、ミニトマトなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
 *原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)
 無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>
 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

ねぎ

ネギアザミウマ(えそ条斑病)



ネギアザミウマ



えそ条斑病の葉の病斑

特徴

- ◆ ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
- ◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が癒合拡大し、葉がしおれて枯死することがある。

防除のポイント

- ◆ えそ条斑病に対する有効な薬剤はないので、媒介昆虫であるネギアザミウマの防除を徹底するとともに、感染株を見つけたらほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)は一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、プレオフロアブル、アグリメック(アザミウマ類)等を散布する。なお、薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

きゅうり

べと病



被害葉*

特徴

- ◆ 気温20～24℃で発生が多い。
- ◆ 下位葉に葉脈で囲まれた黄色角形の病斑ができ、上位葉へ拡大する。

防除のポイント

- ◆ 排水を良好にし、過湿を避ける。
- ◆ 施設栽培では換気に注意し、結露を避ける。
- ◆ 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 肥料切れしないように、肥培管理に注意する。
- ◆ 発生を認めたら、リドミルゴールドMZ、アミスター20フロアブル等を散布する。

うどんこ病



被害葉*

特徴

- ◆ 施設栽培で、日照不足、やや乾燥時に発生が多い。
- ◆ 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。
- ◆ はじめ株の下位葉に小麦粉をかけたような病斑ができる。しだいに上の葉に広がり、葉面全体が白色の粉を振りかけたようになる。

防除のポイント

- ◆ 施設内の換気を良好にする。
- ◆ 被害葉を除去し、通風を良くする。
- ◆ 発生を認めたら、アフエットフロアブル、トリフミン水和剤等を散布する。

きゅうり

褐斑病



病斑

特徴

- ◆ 高温、多湿の施設栽培で発生が多い。
- ◆ 天井フィルムからの結露水のボタ落ちで発病が助長される。
- ◆ はじめ葉に円形・褐色の小型病斑を生じ、やがて灰褐色の5～10mm程度の不規則な病斑になる。多湿条件では病斑上に黒褐色のカビが生える。

防除のポイント

- ◆ 施設内の換気を良好にし、多湿にならないよう注意する。
- ◆ 被害葉・老化葉は早めに除去する。
- ◆ 発生を認めたら、カンタスドライフロアブル等を散布する。

アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ:黄化えそ病)



ミナミキイロアザミウマ被害葉※

特徴

- ◆ アザミウマの発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆ キュウリ黄化えそ病※1等のウイルスを媒介する。
- ◆ MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。

※1:メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病。
きゅうり、メロン、すいか、しろうり、にがうり等に感染する。

防除のポイント

- ◆ 施設の開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ ミナミキイロアザミウマの発生を認めたら、グレーシア乳剤(アザミウマ類)、アフーム乳剤(アザミウマ類)等を散布する。
- ◆ 黄化えそ病の発病株はほ場外へ持ち出し処分する。



黄化えそ病被害葉※

あぶらな科野菜（キャベツ、ブロッコリー、こまつな等）

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良*

特徴

- ◆ 定植後1ヶ月頃から晴天の日中に葉がしおれるようになり、やがて葉色・生育が悪くなり、激しい場合には枯死する。

防除のポイント

- ◆ あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆ 土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場を避ける。
- ◆ 土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいため、石灰質資材等を施用し、pH7程度に調整する。
- ◆ 発病株は早めに根ごと除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 前年発生した畑ではネビリュウやオラクル粉剤等を、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワー等では定植前に、非結球あぶらな科葉菜類（ネビリュウではチンゲンサイを除く）やかぶ等では、は種前に土壌混和する。

菌核病



キャベツでの発生

特徴

- ◆ 暖冬・多雨時に発生が多い。
- ◆ ネズミの糞のような黒い菌核が土中に残って伝染源になる。

防除のポイント

- ◆ 菌核が土中に残って伝染源になるので、発病株は、見つけ次第菌核を落とさないようほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ キャベツやブロッコリーで発生が予想される場合は、ベンレート水和剤、セイビアーフロアブル20等を散布する。
- ◆ 多発ほ場では、菌核病の発生しやすいあぶらな科野菜やレタスなどを連作しない。
- ◆ 水稲との輪作は防除効果がある。

コナガ



幼虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆ 発生を認めたら、アフーム乳剤（キャベツ、こまつななど）、ディアナSC（キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類（こまつな、チンゲンサイ、なばな類を除く）など）等を散布する。



成虫 ※

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>)
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。